

気をつけましょう

哺乳子豚のキバを切りましょう

子豚には上下8本のキバがあります。キバは母豚の乳房を傷つけ、授乳をきらう原因になります。最初の哺乳までに8本のキバをニッパー等で歯根部から切除しましょう。

寄生虫の駆除を

運動場の土壌が汚染すると、子豚は内部寄生虫（特に蛔虫）に犯され、発育障害、貧血等を起します。子豚の離乳直後、生後80～90日頃の2回、駆虫薬による駆除を行いましょう。又汚染土壌は新鮮な土と取替えましょう。

放牧様式による省力管理を

肉豚は体重50kg頃まで、繁殖豚は分娩予定前2週間頃まで、放牧様式で飼育しますと、省力管理ができ、跂蹄の丈夫な、胴延びのよい健康豚になります。一定の土地を区切って簡単なコロニー豚舎で多頭化を。

飼料の自給率は30%以上に

イモ類と優良牧草の増産により、飼料の自給率を30%以上に、飼料費を安く、安定養豚経営の推進を図りましょう。

養 豚

養 鶏

多産期は多食期

春は繁殖機能が活発になって産卵が非常に旺盛になってきます。この時期になると、寡産鶏でも相当の産卵を続けます。そして飼料の質が若干悪くても多く食べ、飼料の利用効率が高いため、ある程度の産卵はします。しかし、この状態が続くと養分が不足し、その要求を満たしてやらないと鶏は自分の貯蔵分を使って産卵するので非常に鶏体は疲れてきます。これが『産み疲れ』で、回復には相当の日数を要し、また病気にもかかりやすくなります。そこで産卵の状況にあわせて良質の飼料を充分に与え、緑餌も出来れば適量を与えます。飼料の給与量も過不足のないよう、つねに新しいものを摂取出来るように気を付けましょう。

経営収支の記帳をしよう

損益のわかりにくい養鶏では経営内容については、白紙状態の場合が多いようです。数字に強くなることこそ経営をより合理的に行うための基礎となります。もっと数字に強くなり、その数字が何を意味し、何を話し、何を教えてくれているかわかるようにしましょ。記帳した数字で経営診断して、悪い原因と治療の方法を知ることが出来ます。何を記帳するか？それは記帳の計画、収支、飼育記録を基礎にして、簡単に記帳できて、その整理診断が正確に出来るよう工夫して毎日記帳しましょ。